

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第2号 野菜

発行日 平成26年 4月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 施設果菜類は保温に努めますが、日中の急激な温度変化に注意しましょう。
- ◆ 露地葉根菜類では、ムリな作業は行わず、土壌が適度に湿った状態で早めに圃場を準備し、天候回復を待って速やかには種や定植を行いましょ。
- ◆ 雨よけほうれんそうは、ムラのない十分なかん水で生育を揃えましょ。

1 生育概況

- (1) 施設果菜苗の生育及び定植後の生育も概ね順調ですが、加温作型、無加温作型とも4月上旬以降の低温の影響により生育の遅延や一部で凍害が散見されます。露地果菜類は現在育苗中ですが、県北部を中心に雪や低温の影響等で生育及び圃場準備の遅れが見られています。
- (2) 露地葉菜類では、ねぎは圃場の準備が順調に進み、平年並みの4月上旬から定植が開始となっています。なお、一部圃場で融雪が遅れ、定植が2週間程度遅れている地域があります。キャベツ、レタスは融雪が進まず、定植がやや遅れ、4月中旬からの開始となっています。また、ねぎ、キャベツ、レタスともに定植後の乾燥などの影響で生育が遅れている地域があります。
- (3) 雨よけほうれんそうは、大雪の影響で融雪が進まず、は種が2週間以上遅れている地域があります。また、は種が行われた圃場では概ね生育は順調ですが圃場の乾燥により、一部でケナガコナダニの発生が見られます。

2 技術対策

(1) 施設果菜類の管理

これからの時期は天気の変化が激しく、温度管理の難しい時期といえます。

1ヶ月予報では、4月下旬の気温は低いものの日照時間は多いとの予報が出されており、温度管理に十分な注意が必要です。その後も最新の気象情報を参考にし、天候に応じた温度管理を心がけてください。特に定植後間もない圃場では、初期生育を良好に保つため、保温管理に注意しましょう。

明け方の冷え込みが予想されるときは、低温による生育停滞や障害を起こさないよう、夕方早めにハウスを閉めるとともに、保温マットやべたがけ資材のほか、必要に応じて補助暖房等を活用し、最低気温の確保を図ります。この場合、きゅうりでは12℃、トマトで10℃、ピーマンで17℃、いちごで8℃程度の温度確保を目標とします。

一方で、日中の最高気温が30℃を越えないよう、こまめな換気に努めることも重要です。

施設内が乾燥しているなど灌水の必要がある場合には、日中の温度が高い時間帯に行い、適湿を保つようにします。特に半促成きゅうりでは空中湿度の低下を防ぎ側枝の発生を促すため、主枝を摘心する頃からは通路かん水も必要となります。

(2) 露地きゅうりの圃場準備

岩手県では、全県を挙げてキュウリホモブシス根腐病総合対策に取り組んでいます。重点実施事項は「基本の栽培管理を徹底する＝根をしっかり張らせる管理」、「早期被害リスク把握による被害

軽減」です。露地きゅうりでは圃場 pH が低い傾向にありますので、まず最適 pH である 6.5 を目標に改良しましょう。排水不良の圃場においては、事前の対策をしっかりと講じてください。

(3) 霜害の回避と事後対策

この時期に定植する葉菜類は、一般に低温に強く、霜害の心配は少ないですが、定植から活着までの間に強い霜に当たると被害を受ける場合があります。気象情報を参考にして、定植直後に強い霜が予想される場合には、定植時期をずらし、被害を回避します。

アスパラガスの萌芽も徐々に始まってきます。降霜により被害を受けた場合は、被害茎を早めに取り除き株の消耗を軽減するとともに、次の若茎の萌芽を促進しましょう。

(4) 露地葉菜類の適期定植とべたがけ資材除去

圃場準備や作業の遅れから、苗の定植適期を逸してしまう恐れがあります。育苗の温度を低めにするなど管理に留意するとともに、老化してしまった場合は次作用の苗を用いるなど作業計画を調整しましょう。圃場準備は無理せず適度な土壌水分になるのを待って行います。乾燥時にはスプリンクラーなどで散水するか降雨を待ちましょう。

4 月中に定植するレタス、キャベツは風のない温暖な日に定植を行ってください。低温が予想される状況でやむを得ず作業を行う場合には、べたがけ資材を利用し、植え傷みの防止、凍霜害の軽減を図りましょう。ただし、べたがけ資材の除去が遅れると高温による変形球発生などの障害が見られますので、表 1 を目安に除去します。

表 1 べたがけ資材除去の目安

	べたがけ資材の除去時期	備 考
レタス	半旬（5 日間）の最高気温の平均が 16℃以上になったら除去する。ただし、これ以下の気温でも結球を開始したら除去する。	PP（パオパオ等）、PE（パスライト等）は、べたがけ下の温度が上がりやすいので、被覆除去を早めにする。
キャベツ	結球開始期に除去する。ただし、18℃以上の最高気温が継続する場合には除去する。	

(5) 雨よけほうれんそう

風が強いなど乾燥する条件が続くと、予想以上に圃場が乾燥している場合があります。は種時のかん水は十分量行い、生育のムラや萎れが生じないようにしましょう。

ケナガコナダニによる被害は、本年度も既に一部で見られています。未熟な有機物（稲わら、粃がらなど）の施用は避けるとともに、例年発生が多く見られる圃場では、本葉が出始めの頃から中心葉に薬液が良くかかるように効果のある殺虫剤を十分量散布します。被害が見られた株は必ず抜き取り、ハウスから離れた場所で処分しましょう。また、例年被害の大きい圃場では適用のある土壌くん蒸剤を用いる方法もあります。

例年萎凋病が多発する圃場では、土壌くん蒸剤による消毒を計画的に実施できるように、薬剤・被覆用ビニールなどの準備をしましょう。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
豊作を 無事故で迎える いわたの農業！

次号は 5 月 29 日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。